

令和4年9月15日

全国専門委員 殿

(公財) 全国高等学校体育連盟剣道専門部
部長 土崎 祐一郎
[公印省略]

令和4年度全国高校総体・高知大会における剣道試合・審判規則等及び大会運営上の確認事項について

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より(公財)全国高体連剣道専門部の諸活動に対しましてご理解とご支援を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、令和4年度全国高校総体・高知大会は、新型コロナウイルス感染症対策及び熱中症対策を講じて開催しましたが、臨機応変に対応しながらお陰様で無事に終了することができました。重ねてお礼申し上げます。この大会期間中の剣道試合・審判規則、新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法等の運用や(公財)全国高体連剣道専門部申し合わせ事項、大会運営に係る内容について下記に確認事項として整理いたしました。高校剣道を善導していくという観点より都道府県内での通知・伝達と指導をお願い申し上げます。

記

【剣道試合・審判規則等に関する内容】

- ・鏝競り合いは、手元を下げた相互に鏝元と鏝元を合わせて竹刀を交差させる。(申し合わせ事項より)
- ・引き技は、接触した瞬間の技、体当たりからの技、鏝競り合いとなり「一呼吸」(時間)からの技を見極めて、有効打突の有無を判定する。(暫定的な試合審判法より)
- ・逆(裏)交差の鏝競り合いについては、技を出す為に起こした瞬間的な行為や、技につながる瞬間的な行為ではなければ、合議をかけて反則とする。(剣道試合・審判・運営要領の手引き及び申し合わせ事項より)
- ・合議をかけて反則とする場合は、合議後に主審はそのまま選手に近づき、具体的に内容を説明する。その後、主審の位置に戻り、「公正を害する行為」・「時間空費」・「不当な鏝競り合い」等の文言を添えて、反則を宣告する。(申し合わせ事項より)
- ・延長戦での「休息」・「休憩」は、主審が赤白の審判旗を左手に持ち、右手を前に出して(手の平が下向き)「休息」・「休憩」をそれぞれ宣告する。

【大会運営に関する内容】

- ・選手控え席や観覧席からの応援は、拍手のみとする。指示や声援は厳禁とする。(剣道試合・審判運営要領及び申し合わせ事項より)

※高知大会の試合中に監督から審判員に対する行き過ぎた言動がありました。もとより試合における審判員への不適切な言動は絶対にあってはならないことでもあります。今後、看過できない内容につきましては厳正に指導して参ります。

各都道府県におきまして再度監督のあり方を確認していただき、地方大会においてもこのようなことがないよう、あらためて指導の徹底をお願いいたします。

- ・団体戦で代表者戦となった場合は、監督が代表者を速やかに決定し、審判主任に申し出る。なお、試合を円滑に進行させるため、代表者はただちに準備すること。

以上

【連絡先】

(公財) 全国高等学校体育連盟剣道専門部
事務局長 植木 伸広
電話 090-2569-9135
メール: Nobuhiro_Ueki@member.metro.tokyo.jp